

2026年のアユの遡上状況

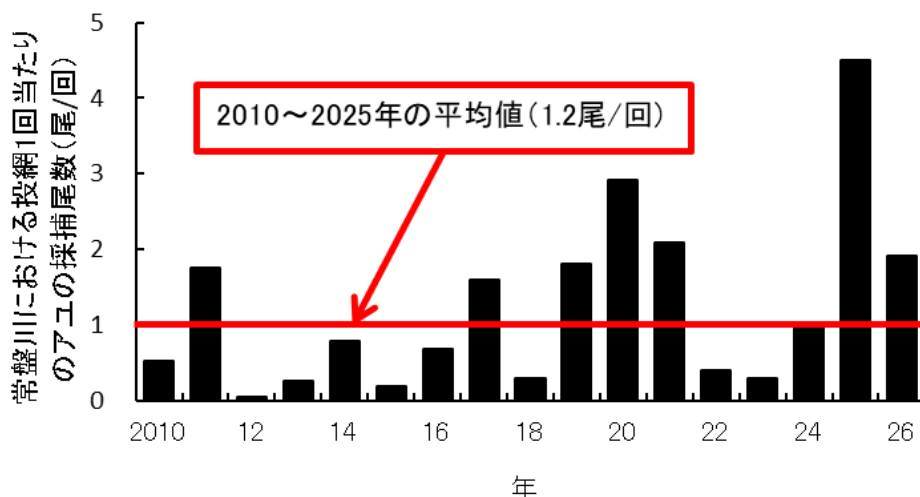
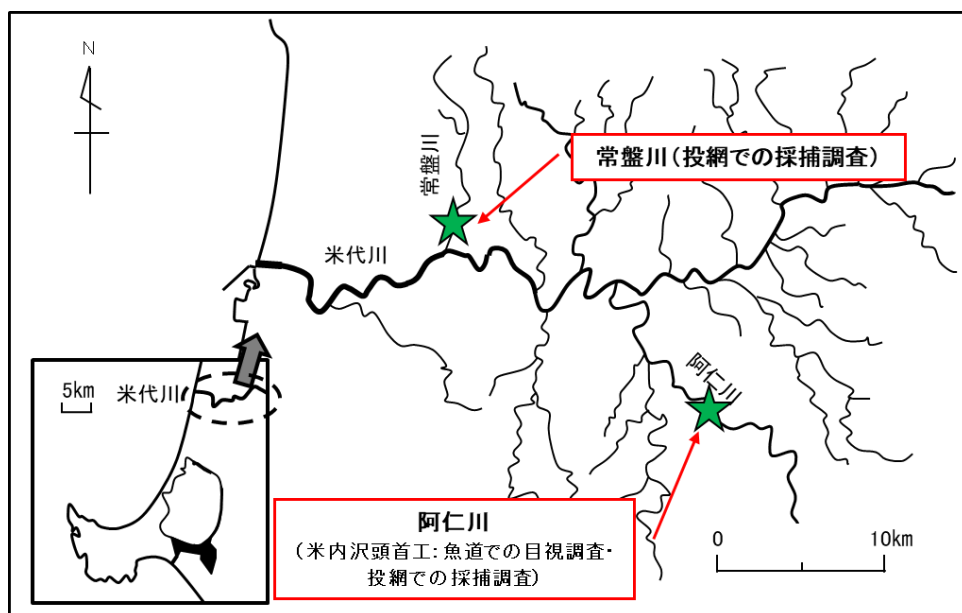
遡上尾数は「多め」、遡上魚の体サイズは「平年並み」と推定

常磐川(図1)における投網1回あたりのアユの採捕尾数が多い年は、米代川水系だけではなく、雄物川、子吉川水系などでも遡上量が多いことが明らかになっています。

2026年の常磐川における4月下旬～6月中旬(4月23日～6月12日)までの投網1回あたりの採捕尾数は、例年の1.6倍(2010～2025年平均値:1.2尾/回)でした(図2)。

調査地点が友釣り漁場内に位置する阿仁川の米内沢頭首工(図1)では、アユの初確認日は例年(6月12日:2010～2025年までの月日の平均値)よりも7日早い6月5日であり、遡上魚の平均全長は14.8cmとほぼ平年並みでした(図3)。

これまでの調査結果から、6月までに米内沢頭首工を遡上するアユの尾数が多い年ほど、シーズン初期の釣獲尾数が多くなるため、好天が続けば解禁日には例年よりも数多くのアユが釣れることが予想されます。



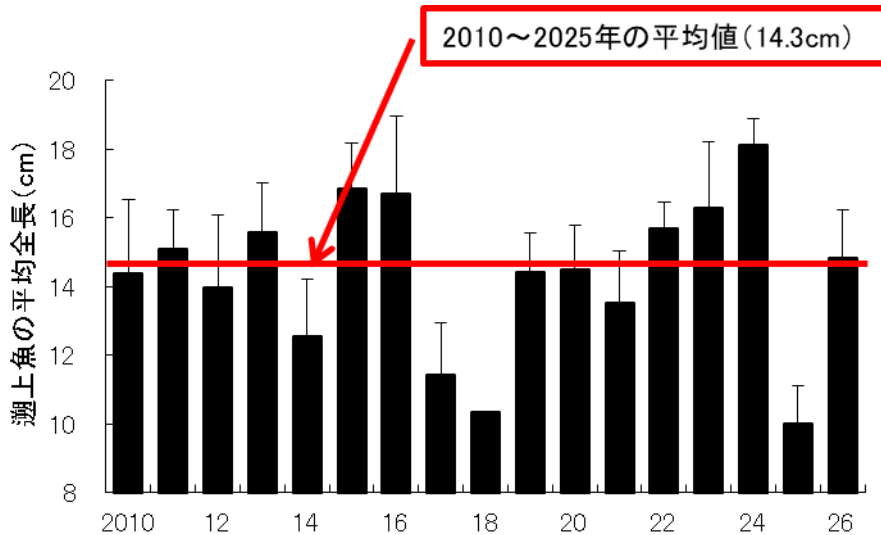


図3 阿仁川米内沢頭首工を遡上したアユの平均全長
[棒グラフ上の縦線は標準偏差（データのばらつき）を示す]

遊漁者の皆さまへのお願い

本州の河川においては、北米原産の外来珪藻「ミズワタクチビルケイソウ」の繁茂が確認されており、分布域の拡大が懸念されております。本種が繁茂するとミズワタのような群生をつくり、アユの生息に悪影響を与えるのみならず、仕掛けに藻がまとわりつくなど、釣り自体にも支障をきたします。これ以上の拡大を防ぐうえでも、釣りをした後は玉網やウェーダー、手袋などを塩水やお湯、エタノールで殺藻くださるよう、ご協力をお願いします。

詳しい殺藻方法や群生写真については、水産庁で発行している以下の資料をご覧ください。

水産庁 「塩で防げ！外来藻類 ミズワタクチビルケイソウ」

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-8.pdf>